

大分県臼杵市（8月3日）

【人 口】43,158 人

【面 積】291.08 k m²

【財政力指数】0.44

視察事項 「企業の農業参入・有機農業推進について」

1 企業の農業参入

(1) 背景

大分県では、農業分野における企業参入促進のため、平成19年度に部局横断的なプロジェクトチームを設置。「参入相談」から、「プラン作成」、「技術取得」、「農地確保」、「施設等整備」、「経営支援」まで一貫した支援体制を整え、ワンストップで対応。その結果、平成23年3月末までに100社が農業参入。フォローアップとして参入後の経営確立支援を実施。

大分県プロジェクトチーム <企業立地推進課・土木建築企画課・農山漁村担い手支援課ほか>

誘致・参入支援



参入候補地等農地情報

市町プロジェクトチーム（農業振興所管課、企画調整所管課、農業委員会など）

(2) 臼杵市への参入実績

- ・(有)豊後大分有機茶生産組合 42.0ha 茶
- ・(株)Codigoro 1.1ha ハビ`-リフ
- ・(有)ワタミファーム臼杵農場 7.2ha 路地野菜
- ・大分有機かぼす農園(株) 4.2ha かぼす

以上は一部の農地について有機 JAS 認証取得

その他 6企業、29.8haの農業参入実績

2 有機農業推進について

(1) 経過

- ・「給食畑の野菜」の取組み...旧臼杵市で地産地消の取組として開始 (H12.9~)
- ・臼杵市環境保全型農林振興公社...農作業受託、農地保有合理化事業 (H14.8~)
- ・旧臼杵市と旧野津町による対等合併...農林業施策の強化 (H17.1~)
- ・「ほんまもんの里・うすき」農業推進協議会 (H17.5~)
- ・臼杵市ほんまもんの里農業推進センター...農業体験施設、有機農業振興 (H19.4~)
- ・臼杵市土づくりセンター（堆肥センター）建設 (H21.4~)
- ・有機農業推進室を設置 (H22.4~)
- ・臼杵市土づくりセンター稼働 (H22.8~)
- ・「うすき夢堆肥」販売開始 (H23.5~)

(2) 施策

- 臼杵市有機農業起業者誘致条例（新規収納者奨励金交付） (H19.4)
- がんばる地方応援プログラム（ほんまもん農業の里・ドリム`ロジ`ェト） (H19~H21)
- 有機農業総合支援対策（「給食畑の野菜」有機農業推進協議会） (H20~H21)

- 白杵市有機農業推進計画策定（基本理念：地産地消型の有機農業推進） (H22.3)
- 白杵市「食」と「農」基本条例 (H22.3)
- 産地収益力向上支援事業（有機農業推進事業） (H22～)

- (3) 遊休農地を有機の農地へ
農地保有合理化事業（農地利用円滑化事業）
H19～H22 借受 - 52.19ha 貸付 47.99ha

- (4) 土づくりセンターについて
 - ・原料 草木類 8割 畜糞（豚糞）2割（約6か月の発酵期間で完熟堆肥を製造）
 - ・年間生産量 3,000t（農地面積150ha分）
 - ・名称 うすき夢堆肥



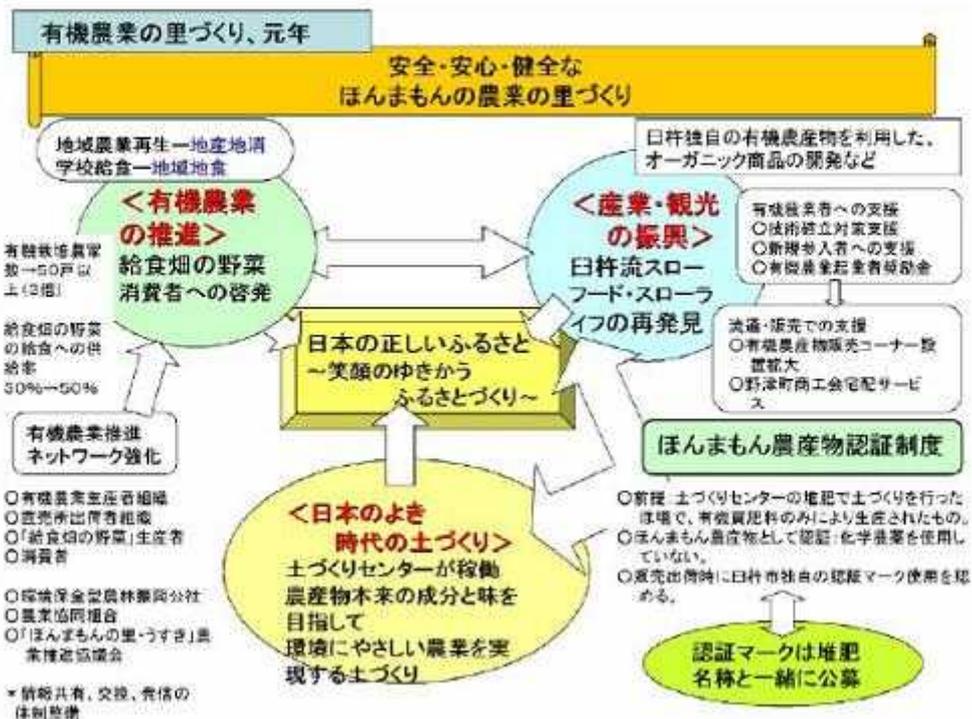
うすき夢堆肥使用により
農産物本来の成分と味を実現、持続的生産を実現

化学肥料や化学合成農薬に頼らない、
有機の里づくりをめざしていきます。

ほんまもん農産物をいつでも食べることができる
幸せな市民に - いつまでも、元気！健康！ -

3 有機農業に関する施策体系

白杵市が進める「ほんまもん農業のまちづくり」
～ ほんまもんの農業は土づくりから ～



【委員の感想】

耕作放棄地を畑として再生するプログラムについて説明を受けた。東広島市の耕作放棄地の9割は原野となっているという。やはり畑しかないのだろうかと考えさせられた。木材をチップに加工して豚ふんを混合し、堆肥にする工場を見学して、その規模とシステムに感心させられた。しかし、工場立地の際の条件でごみを扱うことができないとのこと。採算は合うのだろうか疑問に感じた。

臼杵市土づくりセンターを視察して、感心を持ったのは土づくりセンターのプラント一式です。堆肥製造というだけにかかなり臭いがあるイメージがあったのですが、払拭されました。

処理システムについて、なんとわずか6か月の工程で製品となること。そして、入荷～出荷のラインがスピーディーであること。さらに太陽光発電パネルを使用し、施設の消費電力を2分の1にしたことです。大変に参考になりました。

臼杵市は、平成15年の統計によると、農業算出額65億余、野菜、畜産、米、果実、工芸作物等バランスのよい農業支出であると思った。畑作中心の有機の土づくり、ほんまもんの農産物認証制度については、東広島市も努力し、学ぶべきであると思う。

遊休農地を有機の農地へ、企業の農業参入も取り組みとしては成果が大きいと思う。

土づくりセンターは、栄養型堆肥でなく、昔から農家が取り組んでいた草木類を中心にした堆肥作りであり、理想があるように思う。草木については購入とのことであり、全体に企業経営になるのか心配であるが、有機栽培の農産物の価値観に期待したい。

大分県における企業の農業参入の取り組みの一つ。農業公社を通して取り組むが、遊休農地の集積に苦労されており、耕作放棄地を利用可能な農地にするために努力されている。

安全・安心・健全なほんまもんの農業の里づくりとして、自然に近い完熟堆肥を人工的に製造し、農業振興を図り、農産物を収穫する。農産物がおいしく、元気であるためには土壌がミネラル豊富で健康でなければならない。そのためにセンターで製造された有機堆肥を土づくりに使ってもらわなければならない。住民の理解が必要であり、市の農業に対する取り組みを行政の柱にするかどうかで変わるだろう。

臼杵市長の熱い想いにより、耕作放棄地の解消や、チップ材と豚ふんの堆肥化施設が実現し、今年度から堆肥の販売を開始された。議会も「食と農に関する基本条例」を制定され、地産地消の取り組みの、まさに先進地でした。